

かんしょの葉を食害するナカジロシタバに対する各種薬剤の殺虫効果		
[要約] かんしょに発生するナカジロシタバに対して、農薬登録されている各種薬剤の殺虫効果は高い。		
農業総合センター農業研究所	成果区分	技術参考

1. 背景・ねらい

ナカジロシタバは、かんしょに発生し葉を食害する。大量発生時にはかんしょ葉を食い尽くした後、餌を求めて住宅に侵入するなど、衛生害虫としても問題となっている。このナカジロシタバに対して、農薬登録されている各種薬剤の殺虫効果を明らかにする。

2. 成果の内容・特徴

1) 虫体浸漬法ではナカジロシタバ3齢幼虫に対して、インドキサカルブMP水和剤およびテブフェノジド水和剤の殺虫効果はやや低いが、他の薬剤の殺虫効果は高い。(表1)

2) 食餌浸漬法ではナカジロシタバ2齢幼虫に対する有機リン剤、カーバメート剤、合成ピレスロイド剤、IGR剤(脱皮阻害剤)等の薬剤の殺虫効果は、いずれも高い。(表2)

3) IGR剤の殺虫効果はやや遅効的である。このため、他の剤に比べてやや食害程度が高くなる傾向がある。(表1, 2)

3. 成果の活用面・留意点

1) 農業研究所(水戸市上国井町)で採集したナカジロシタバ幼虫を累代飼育して、試験を行った結果である。

2) IGR剤の殺虫効果は遅効的で処理後の食害も認められるので、幼虫が大きくなる前に薬剤散布を行う。

3) いずれの薬剤もかんしょのナカジロシタバに対して登録がある(平成19年1月現在)。

4. 具体的データ

表1 ナカジロシタバに対する各種薬剤の殺虫効果（虫体浸漬，3 齢幼虫）

供試薬剤	希釈倍数	補正死虫率（%）			系 統
		1日後	5日後	7日後	
DEP乳剤	1,000	100	100	100	有機リン
アラニカルブ水和剤	1,000	100	100	100	カーバメート
インドキサカルブMP水和剤	2,000	66	86	86	オキサダイアジン
エトフェンプロックス乳剤	1,000	100	100	100	合成ピレスロイド
シペルメトリン水和剤	2,000	100	100	100	合成ピレスロイド
チオジカルブ水和剤	1,000	90	93	93	カーバメート
テブフェノジド水和剤	2,000	28	59	59	I G R
テフルベンズロン乳剤	1,000	4	100	100	I G R
プロチオフォス乳剤	1,000	100	100	100	有機リン
プロフェノフォス乳剤	1,500	100	100	100	有機リン
ルフェヌロン乳剤	3,000	24	97	97	I G R

注) 薬液に供試幼虫を5秒間浸漬後，かんしょ葉（「ベニアズマ」）を給餌し，定温器（25℃）内に静置して生死虫数を調査した。

補正死虫率 = (対照区の生存虫率 - 処理区の生存虫率) / 無処理区の生存虫率 × 100

表2 ナカジロシタバに対する各種薬剤の殺虫効果（食餌浸漬，2 齢幼虫）

供試薬剤	希釈倍数	補正死虫率（%）		
		2日後	3日後	7日後
DEP乳剤	1,000	100	100	100
アラニカルブ水和剤	1,000	100	100	100
インドキサカルブMP水和剤	2,000	100	100	100
エトフェンプロックス乳剤	1,000	100	100	100
シペルメトリン水和剤	2,000	100	100	100
チオジカルブ水和剤	1,000	100	100	100
テブフェノジド水和剤	2,000	97	100	100
テフルベンズロン乳剤	1,000	90	100	100
プロチオフォス乳剤	1,000	100	100	100
プロフェノフォス乳剤	1,500	100	100	100
ルフェヌロン乳剤	3,000	70	90	100

注) 薬液にかんしょ葉（「ベニアズマ」）を10秒間浸漬，風乾後，供試幼虫に給餌し，定温器（25℃）内に静置して生死虫数を調査した。

補正死虫率：表1に同じ。

5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

かんしょ食葉性ガ類の防除対策と特別栽培農産物に適合する病虫害防除体系の確立・平成17～19年・病虫研究室